

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和5年度

市町村名	吉見町					
提案事業名	水と共に暮らす町を知る拠点づくり事業					
事業期間	令和元年度 ～ 令和3年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 文覚川に対する満足度					
	(成果検証の具体的な方法) 周辺住民へのアンケート実施（事前調査78人）					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	A
	従前値 (30年2月時点)	満足:3% やや満足:3%	目標値 (5年3月時点)	満足・やや満足:45%	実績値 (5年3月時点)	満足・やや満足:47%
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項		近隣住民への回覧				

【事業効果の整理・原因分析】

令和元～3年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 町営駐車場整備事業	○	駐車場を整備したことで、整備されたさくら堤公園等の来訪者の利便性がさらに向上した。
② 農業学習施設整備事業	○	桜の季節に花見等で訪れた来訪者が、農業水利施設の役割を知る機会を創出しているほか、散歩者なども農業水利に関する知識を得られるようになった。
③ さくら堤公園整備事業	○	さくら堤公園が利用しやすくなり、花見客のほか、子ども連れの散歩者、ベビーカーなどが桜の時期以外にも訪れるようになった。
④ 農業用水学習施設整備事業	○	②と同様。学習目的ではない来訪者に、学びのきっかけを提供できている。
⑤ 安全対策事業	○	文覚川沿いの安全施設を整備したことで、子ども連れの散歩などで訪れる人が見られるようになった。
⑥ 農業水利施設学習事業	△	コロナ禍により多くの人を集めることが制限されたため、効果は、コロナ前の計画想定よりも限定的。
⑦ 農業水利施設学習事業	△	⑥と同様。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について十分に成果が認められた点	ハード整備事業に関しては、公園等の屋外施設であったためコロナ禍であっても来訪していただくことができ、花見客、子ども、子育て世代などに文覚川、農業水利、農業などを知っていただく機会が増え、身近に見て感じていただく場が創出された。
実施事業について成果が不十分である点	コロナ前に計画していたソフト事業（学習事業）が、コロナ禍により手法の変更を余儀なくされたことで、チラシ等の配布による周知広報で啓発を図ることに留まってしまっている。
成果検証を踏まえた今後の改善策	コロナに関する社会の状況が変わったことを踏まえて、限定的な事業となっていた周知広報・啓発関係のソフト事業を検討する